みどりの大使が行く！

2026
ミス日本みどりの大使
永田 愛実（ながた まなみ）

緑の羽根着用キャンペーン

みどりの月間（4月15日～5月14日）に向けた緑の募金の呼びかけとして、首相官邸にて高市内閣総理大臣に緑の羽根を着けさせていただきました。

日本の貴重な財産である「豊かな森林」を次の世代につないでいくことについてお話しをいただき、私からは6月に控えているチェーンソー研修についてお話ししました。

高市内閣総理大臣からは激励の言葉をいただき、より一層身の引き締まる思いです。これからの活動にも精一杯取り組んで参ります。

緑の募金街頭呼びかけ

4月3日、新潟駅で街頭募金活動に参加し、みどりの少年団の子どもたちや、新潟県知事、副市長の方々と一緒に呼びかけを行いました。駅前に少年団の子どもたちの元気いっぱいな声が響きました。まっすぐな声に引き込まれるように足を止めてくださる方も多く、苗木と緑の羽根をお渡ししながら私自身も声のトーンが上がっていったのを覚えています。

森を遠い存在に感じる人が多いかもしれませんが、このように人の思いが集まり、形となって森を育てていく。案外、「身近な人の小さな一歩」で支えられているものなのだと気づかされた瞬間でした。

MOKUストーリー ～森の記憶～

神奈川県内で配信されているケーブルテレビYOUテレビの番組「MOKUストーリー～森の記憶～」でナビゲーターを務めさせていただいています。

この番組では、日本の森や木の可能性、その背景にある人の想いを伝えています。3月末には三重県と岐阜県で収録を行いました。テーマは「大人の木育」です。林業をテーマにしたボードゲームを皮切りに、林業や木材産業の現場をみていきます。

収録のために木を扱う現場を訪れ、木の香りや手触り、その場の空気を感じることで、木の見え方が一気に変わった気がします。ただ知識として知るだけではなく、自分の感覚で受け取ることで、木の価値がちゃんと自分の中に入ってくる。「大人の木育」とは、そういうことなのだと感じました。

愛実のつなぐ・届ける・森の声
「丸太の料理人」

この言葉は、三重県熊野市でお話を伺った製材会社Nojimoku代表取締役　野地伸卓さんの言葉です。木が伐られるところや、木が家の材料として使われる場面はイメージできますが、その間にある「製材」の工程は、一般にはほとんど知られていない世界だと思います。

お話を伺う中で、野地さんがふと、ご自分の仕事のことを「丸太の料理人みたいなものなんですよ」と言われた言葉が私の心にとても残りました。同じ丸太でも、どう活かすか、どんな形にするかで価値が変わる。関わる人の手によって全く違うものになるという考え方が、まさに料理のようだと感じました。

それまで私は、木の価値は「育てること」や「使うこと」にあると思っていましたが、その2つの間で木の可能性を引き出している人たちがいることを知りました。その方々のおかげで、木は暮らしの中で活きるのだと気づかされました。一方で、その大切な工程はあまり知られていないという現状も教えていただきました。だからこそ、「丸太の料理人」という言葉には、仕事への誇りと、もっと知ってほしいという想いの両方が込められているように感じました。

森と人とをつなぐ、その真ん中にある仕事。その存在や魅力を、これからも伝えていきます。

公益社団法人国土緑化推進機構ウェブサイト「みどりの大使」▶
https://www.green.or.jp/promotion/midorino-taishi/